# 福島第一原子力発電所現地確認報告書

## １　確認日

令和７年４月９日（水）

## ２　確認箇所

５・６号機タービン建屋（図１）

## ３　確認項目

５・６号機タービン建屋滞留水の状況

## ４　確認結果の概要

東日本大震災以降、サブドレン設備の停止により５・６号機建屋地下階に地下水が流入している。当設備の復旧工事※が完了し、令和４年３月２８日から、建屋周囲の地下水汲み上げが開始しているものの、５・６号機建屋地下階への地下水の流入は継続している。

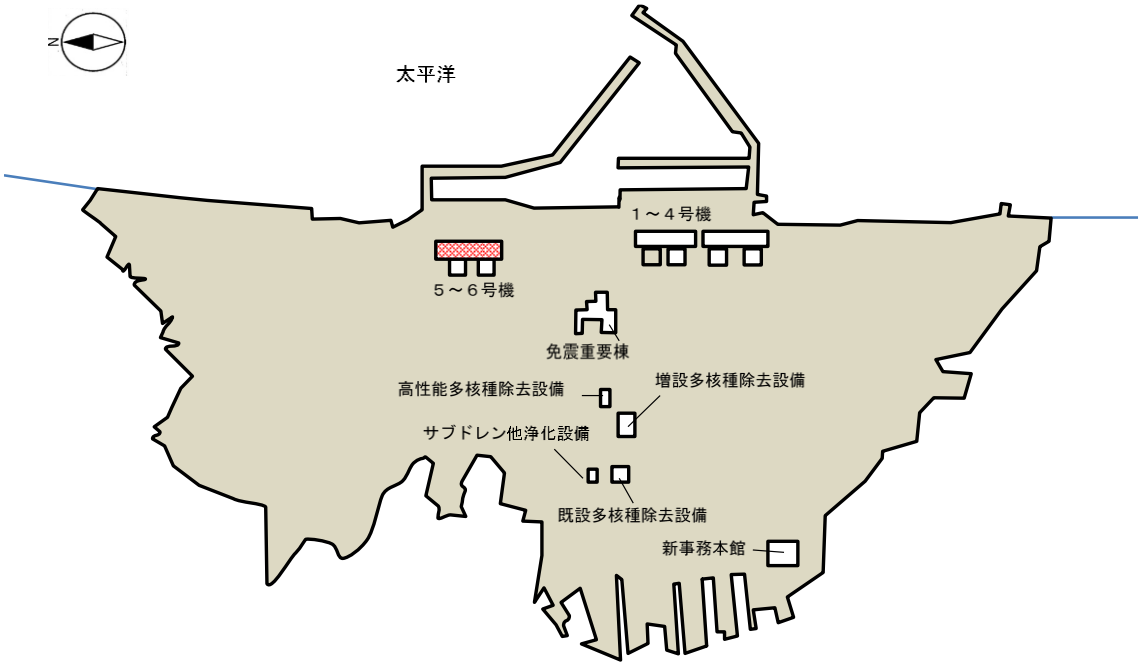
５・６号機建屋地下階に溜まっている地下水（以下「滞留水」という。）は、Ｆ１タンクエリアに移送され、浄化処理された後、構内に散水されている。（前回確認：令和６年４月８日）

本日は、５・６号機タービン建屋地下階において、滞留水の状況を確認した。（前回確認：令和６年６月１４日）

・５号機および６号機のタービン建屋地下階における滞留水の状況を確認した結果、水位はそれぞれ約６０ｃｍおよび約７０ｃｍであった。（写真１）
・滞留水の移送（５号機タービン建屋→６号機タービン建屋、６号機タービン建屋→Ｆ１タンクエリア）が行われていた。（写真２）
・５号機タービン建屋地下階の滞留水に浮遊する油の除去を目的としたオイルマットの回収作業が実施されていた。（写真３）
・６号機タービン建屋地下階の壁を確認したところ、壁貫通部からわずかに地下水が流入している状況が確認された。（写真４）
・確認した範囲においては、滞留水を移送するための配管からの水漏れ等の異常は認められなかった。

※５・６号機サブドレン設備復旧工事

東日本大震災以降稼働を停止していた５・６号機建屋周辺のサブドレン設備（地下水くみ上げ設備）を復旧するための工事。サブドレン設備の復旧により地下水位を低下させ、建屋に流入する地下水の量を抑制できる。




（図１）福島第一原子力発電所構内概略図

（写真１－１）
５号機タービン建屋地下階の滞留水の状況

（写真１－２）
６号機タービン建屋地下階の滞留水の状況

（写真２－１）
５号機タービン建屋地下階における
滞留水移送配管の状況

（写真２－２）
６号機タービン建屋地下階における
滞留水移送配管の状況

（写真３）
オイルマット回収作業の状況
※作業員はウェーダー（胴長靴）を
着用

（写真４）
壁貫通部の状況
※壁より手前がタービン建屋、壁の
向こうが原子炉建屋

## ５　プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。